

## 米野々演習林の草本植物(Ⅲ)<sup>‡</sup>

藤 久 正 文\*・得 居 修\*\*

### I 本報の内容と説明

1. 本報は、米野々演習林に生育する単子葉植物のうち、(I)報で取り扱わなかったイネ科・カヤツリグサ科、および種数がふえたため重複して記載したイグサ科について記録した。また、本報で草本植物のフローラリストの作成が一応完了したので、総括として、木本植物を含めた全植物の種類数をとりまとめた。
2. 学名と和名の大部分は、大井次三郎・北川政夫：新日本植物誌 顕花編(1984)を用いた。
3. 本報中の分布状況などについては、(I)報(1981)を参照されたい。
4. 本報に収録した前記3科の種類数は、36属・64種・14変種で、合計78種類である。

(謝辞) 本報を取りまとめるに当り、今治明德短期大学 山本四郎教授には、すべてのさく葉について一覧をお願いした。また、疑問なスゲ類については、宇都宮市在住の野口達也氏に同定(和名の右肩に※印のもの)をお願いした。ここに附記して謝意を表する次第である。

### II 演習林産草本植物目録(Ⅲ)

#### 1. Monocotyledoneae 単子葉植物

##### (I)報以外の植物

##### Gramineae イネ科

*Agropyron racemiferum* Koidz. アオカモジグサ 下部(桧皮田, 520m), 日当りの道ばたや林のふち, 適潤地~やや湿潤地, やや少, 散生

*A. tsukushiense* Ohwi var. *transiens* Ohwi カモジグサ 下部~中部(550~720m), 日当りの道ばたや原野の適潤地, やや少, 散生

*Agrostis clavata* Trin. ヤマヌカボ 下部~中部(520~800m), 日当りの谷ぞいや道ばたの湿潤地~適潤地, 少, 散生

*A. clavata* Trin. var. *nukabo* Ohwi ヌカボ 下部~上部(650~1210m), 日当りの道ばたや山腹などの適潤地に多い, やや普通, 散生~やや群生

<sup>‡</sup> Masafumi FUJIHISA and Osamu TOKUI: The herbaceous plants in the Komenono University Forest of Ehime University (III)

\* 附属演習林 University Forest

\*\* 愛媛県林業試験場 Ehime Prefectural Forest Experiment Station

*Alopecurus aequalis* Sobol. スズメノテッポウ 下部～中部 (530～710m), 苗畑 (桧皮田) や日当りの伐採跡地の小さい谷ぞいなど, 適潤地～やや湿潤地, 少, 散生

*Arthraxon hispidus* Makino コブナグサ 下部 (520m), 日当りの道ばた, 適潤地, やや稀, 散生

*Arundinella hirta* C. Tanaka トダシバ 下部 (桧皮田, 600m), 日当りの道ばた, やや湿潤地, 稀, 散生

*Brachyelytrum japonicum* Hack. コウヤザサ 下部 (520～690m), 道ばたや明るい林内, 適潤地～やや湿潤地, 少, 散生

*Brachypodium sylvaticum* P. Beauv. ヤマカモジグサ 下部～中部 (600～750m), 明るい林内や林のふちなど, 適潤地, やや少, 散生

*Bromus pauciflorus* Hack. キツネガヤ 下部～中部 (520～720m), 谷ぶちの草生地や林のふち, やや湿潤地, やや稀, 単生～散生 (写真-6)

*Calamagrostis arundinacea* Roth var. *brachytricha* Hack. ノガリヤス (サイトウガヤ) 下部 (550～680m), 日当りの道ばたや山腹の適潤地に多い, 少, 散生

*Cynodon dactylon* Pers. ギョウギシバ 下部 (長井田, 700m), 日当りの道ばた, やや乾燥地, 稀, 長い地上走出枝を出して群生

*Dactylis glomerata* Linn. カモガヤ 下部 (520～600m), 道ばたの溝などのやや湿潤地, やや稀, 散生

*Digitaria timorensis* Balansa コメヒシバ 下部 (桧皮田, 520～530m), 日当りの道ばたや苗畑, 適潤地に多い, 少, 散生～群生

*D. violascens* Link. アキメヒシバ 下部 (550～690m), 道ばたに多い, 適潤地, 少, 散生

*Eccoilopus cotulifer* A. Camus アブラスキ 中部 (桧皮田, 820m), 日当りの谷ぞい, 適潤地, 稀, 単生

*Echinochloa crus-galli* Beauv. イヌビエ (ノビエ) 下部 (520～650m), 苗畑や日当りの道ばたの溝, 適潤地～やや湿潤地, やや稀, 単生～散生

*E. crus-galli* Beauv. var. *oryzicola* Ohwi タイヌビエ 下部 (桧皮田, 520m), 道ばたの溝, 湿潤地, やや稀, 単生

*Eragrostis curvula* Nees シナダレスズメガヤ (ウィーピング・ラブグラス) 下部 (520～680m), 日当りの道ばたやのり面, やや乾燥地～適潤地, やや少, 散生～群生, わが国へは, 昭和26年に山腹緑化工に導入, 本演習林でものり面緑化工実験に使用したものが各地の道ばたに野生化。英名 Weeping lovegrass

*E. ferruginea* Beauv. カゼクサ 下部 (桧皮田, 520～540m), 日当りの道ばた, やや乾燥地～適潤地, やや稀, 散生

*Eriochloa villosa* Kunth ナルコビエ 下部 (長井田, 650m), 道ばたのくぼ地の湿潤地, やや稀, 散生

*Festuca arundinacea* Schreb. オニウシノケグサ 下部～中部 (530～810m), 日当りの道ばたやのり面, やや乾燥地～適潤地, 少, 群生, わが国へは昭和24年に山腹緑化工に導入, 本演習林でものり面緑化工実験に使用したものが各地で野生化している。Tall fescue または, Kentucky 31 fescue の英名がある。

*F. myuros* Linn. ナギナタガヤ 下部 (岩屋小屋, 680～710m), 日当りの道ばた, やや乾燥地, やや稀, 散生

*F. ovina* Linn. var. *coreana* St. Yves アオウシノケグサ, 下部 (桧皮田, 520m), 日当りの土の浅い岩石上, 稀, 密生して株状となり散生

*F. parvigluma* Steud. トボシガラ 下部～上部 (690～1210m), 道ばたや山腹下部から尾根ぞいの疎林地などに多い, やや乾燥地～適潤地, 少, 散生

*Microstegium japonicum* Koidz. ササガヤ 下部～中部 (520～860m), 道ばたや明るい林地など, やや乾燥地～湿潤地, 少, 群生

*M. vimineum* A. Camus ヒメアシボソ 下部～上部 (520～930m), 道ばたや林縁～明るい林内など, 適潤地～湿潤地, 少, 散生～群生

*M. vimineum* A. Camus var. *polystachyum* Ohwi アシボソ 下部～中部 (520～860m) ヒメアシボソの小穂に長い芒があるもので, 生育地などヒメアシボソと同じ。

*Miscanthus sinensis* Anderss. ススキ 下部～上部 (520～1216m), 水湿地や光のよく当たらない木かげの林地を除いて全域に分布, 乾燥地～湿潤地, 多, そう生して大株になり, 群生することが多い。

*Oplismenus undulatifolius* Roemer et Schultes var. *japonicus* Koidz. チヂミザサ 下部～中部 (520～860m), 道ばたや谷ぶちから尾根にかけてスギ・ヒノキ林や広葉樹林の林地に広く分布, 適潤地～湿潤地, やや多, 群生状になることが多い。

*O. undulatifolius* Roemer et Schultes ケチヂミザサ 下部～中部 (540～700m), 道ばたや谷ぶちの湿潤地, 林内の適潤地など, チヂミザサよりも分布量が少ない。

*Panicum bisulcatum* Thunb. ヌカキビ 下部 (520～690m), 道ばたや明るい谷のふちなど, 適潤地～やや湿潤地, 少, 散生

*Paspalum thunbergii* Kunth スズメノヒエ 下部 (桧皮田, 岩屋小屋, 520～660m), 日当りの道ばた, 適潤地～やや湿潤地, やや稀, 散生

*Pennisetum alopecuroides* Spreng. チカラシバ 下部 (桧皮田, 530m), 日当りの道ばた, やや乾燥地, やや稀, そう生して株となり単生

*Phragmites japonica* Steud. ツルヨシ 中部 (桧皮田, 720m), 日当りの谷ぞい, やや稀, 群生 (写真-7)

*Poa acroleuca* Steud. ミゾイチゴツナギ 下部～中部 (600～720m), 日当りの道ばたの溝や谷ぞいから山腹の疎林地など, 湿潤地に多い, 少, 散生

*P. annua* Linn. スズメノカタビラ 下部～中部 (530～730m), 日当りの道ばたや谷ぞいの伐採地の裸地, 苗畑など, 適潤地～やや湿潤地, 少～やや普通, 散生～稀に群生

*P. sphondylodes* Trin. イチゴツナギ 下部～中部 (520～700m), 日当りの道ばたの溝や林のふち, やや湿潤地, 少, 散生

*Polygona fugax* Steud. ヒエガエリ 下部 (桧皮田, 680m), 日当りの谷合いの湿地～湿潤地, やや稀, 散生

*Setaria glauca* Beauv. キンエノコロ 下部 (520～690m), 日当りの道ばたや苗畑, 適潤地に多い, 少, 散生

*S. pallide-fusca* Stapf et C. E. Hubb. コツブキンエノコロ 下部 (520～560m), 日当りの道ばたや苗畑の湿潤地, やや少, 散生, 剛毛が紫色のものが苗畑にある。

*Sporobolus fertilis* W. Clayton ネズミノオ 下部 (桧皮田, 520m), 日当りの道ばた, やや乾燥地, 稀, そう生して株になるが単生

*Trisetum Koidzumianum* Ohwi カニツリグサ 下部 (520～620m), 日当りの道ばたや原野などの適潤地, 少, 散生

*Zoisia tenuifolia* Willd. コウライシバ 下部 (桧皮田, 520m), 気象観測所の芝生として植栽。

### Cyperaceae カヤツリグサ科

*Carex breviculmis* R. Br. アオスゲ<sup>※</sup> 下部 (520～700m), 日当りのよい道ばたや岩上, 明るい山

腹の林内など、少、そう生して散生

*C. conica* Boott ヒメカンスゲ<sup>\*</sup> 下部～上部 (600～910m)、谷ぞいから山腹のやや湿潤地～適潤地、少、走出枝を出して散生～群生

*C. multifolia* Ohwi ミヤマカンスゲ 下部 (530～650m)、谷ぞい～山腹のやや湿潤地～適潤地、少～やや普通、そう生し散生～群生

*C. multifolia* Ohwi var. *pallidisquama* Ohwi アオミヤマカンスゲ<sup>\*</sup> 下部 (530～700m)、谷すじのやや湿潤地、やや少、杉本順一氏はミヤマカンスゲの基部の鞘とえいが緑色のものとして、秋山茂雄氏は鞘が黄褐色、えいは蒼白色～帯黄色としている。

*C. fernaldiana* Lev. et Van. イトスゲ<sup>\*</sup> 下部～中部 (540～780m)、谷ぞいの湿った岩上や、やや湿潤な林内に多い、少、散生～群生

*C. filipes* Franch. et Savat. タマツリスゲ<sup>\*</sup> 下部～中部 (680～750m)、谷ぞいから山腹のやや湿潤地～適潤地にまばらにそう生し株状、やや少、散生

*C. gibba* Wahlenb. マスクサ(マスクサスゲ) 中部(岩屋小屋, 740m)、道ばたの適潤地、稀、点生

*C. grallatoria* Maxim. ヒナスゲ<sup>\*</sup> 中部～上部 (750～1,110m)、やや湿った明るい岩上、岩上の浅土地や尾根の乾燥地、散生～群生

*C. grallatoria* Maxim. var. *heteroclita* Kükenth. サナギスゲ<sup>\*</sup> 下部～中部 (670～870m)、日当りの岩上や明るい尾根の乾燥地、少、散生～群生

*C. japonica* Thunb. ヒゴクサ<sup>\*</sup> 下部～中部 (520～750m)、日当りの谷ぞいから山腹や明るい林内などの湿潤地から適潤地など、やや普通、散生～群生(写真-4)

*C. Kiotensis* Franch. et Savat. テキリスゲ<sup>\*</sup> 下部～中部 (540～750m)、明るい谷ぞいややや湿った山腹、やや普通、そう生して株状、散生、変異の幅が大きい(写真-3)

*C. lenta* D. Don ナキリスゲ<sup>\*</sup> 下部 (520～600m)、やや湿った谷ぞいや道ばた・林内・岩上など、少、散生

*C. mayebarana* Ohwi ケクサスゲ(ケヒエスゲ)<sup>\*</sup> 上部 (980m)、尾根ぞいの適潤地、やや稀、散生、本県では今までに採集された記録がなかった。

*C. mitrata* Franch. var. *aristata* Ohwi ノゲヌカスゲ<sup>\*</sup> 下部 (530～700m)、道ばたや湿潤な岩石上、やや稀、そう生する

*C. morrowii* Boott カンスゲ 下部～中部 (530～870m)、谷ぞいの湿潤地に多く、やや明るい山腹斜面の適潤地にも生える、少～やや普通、そう生して大きな株になる、散生～群生

*C. nemostachys* Steud. アキカサスゲ<sup>\*</sup> 下部(桧皮田, 520m)、道ばたの湿潤地、稀、地下茎を出してそう生

*C. pachygyna* Franch. et Savat. ササノハスゲ 下部～上部 (530～900m)、谷ぞいの山麓から山腹のやや湿潤地や林内の適潤地に多い、少、散生するが稀に群生、タガネソウよりも多い。

*C. reinii* Franch. et Savat. コカンスゲ 中部(岩屋小屋, 740m)、谷ぞいの湿った岩上や浅土地、やや稀、散生～群生

*C. sachalinensis* Fr. Schm. var. *Sikokiana* Ohwi ベニイトスゲ<sup>\*</sup> 下部～中部 (530～750m)、明るい林内や道ばたのやや湿潤地～適潤地に走出枝を出して散生、少

*C. satsumensis* Franch. et Savat. アブラシバ 下部～中部 (550～830m)、日当りの道ばたや谷の砂礫地および山腹の裸地などの乾燥地に多いが適潤地にも生育、少～やや普通、散生～群生(写真-5)

*C. siderosticta* Hance タガネソウ 下部～中部 (540～800m)、山麓～山腹の林内の適潤地に多い、少、散生

*C. teinogyna* Boott フサナキリスゲ 下部 (桧皮田, 520m), 道ばたのやや湿潤地, 稀, 散生  
*C. tumidula* Ohwi イワヤスゲ\* 下部~上部 (520~910m), 半日かげの道ばたや明るい林内の適潤地~やや湿潤地に多い, 地下茎は長くはい, まばらに地上茎を出す, やや普通, 群生状。

このイワヤスゲは, シダ類のイワヤシダやイヨクジャクと共に, 上浮穴郡美川村の岩屋山が Type locality であり, イワヤスゲは愛媛県の特産種であるが, 今までの産地として, 東予市庄内(山下幸平著 愛媛県植物便覧<1936>)および皿ヶ嶺(湯山勇氏が採集されたという話を山本四郎先生からお聞きした)が知られていた。しかし, スゲ類は果実をつけた時期以外では識別が困難であることから, 確実な産地に限定したためか最新の植物誌である山本四郎著 愛媛県産植物の種類(1978)には, 岩屋山だけが記載され, 生育量もごく稀としている。また, このイワヤスゲは, 発見後採集されたことがないためか, 岩屋山のフローラについて書かれたもの, 例えば八木繁一著 愛媛の植物(愛媛郷土叢書第2巻)(1962)一岩屋山の植物一や, 山本四郎著 愛媛の植物記(愛媛文化双書29)(1977)一岩屋山と古岩屋一などにも全く触れられていない。本演習林では, 広範囲にしかも量的にも比較的多く分布している。今後岩屋山周辺や本演習林に接した高縄山系でも新産地が期待されるので, 精査が必要であろう。写生図が大井次三郎著「日本植物誌(顕花編)」やその改訂版の大井・北川著「新日本植物誌(顕花編)」にある。(写真-1~2)

*Cyperus amuricus* Maxim. チャガヤツリ 下部(600~670m), 日当りの道ばた, 適潤地, やや稀, 散生

*C. brevifolius* Hassk. var. *leiolepis* T. Koyama ヒメクグ 下部(桧皮田, 岩屋小屋520~700m), 日当りの湿潤地, 道ばた, 少, 散生~群生

*C. orthostachyus* Franch. et Savat. ウシクグ 下部(桧皮田, 520m), 道ばたの湿潤地, 稀, 散生

*Fimbristylis autumnalis* Roem. et Schult. ヒメテンツキ(ヒメヒラテンツキ) 下部(桧皮田の苗畑, 520m), 日当りのよいやや湿潤地, 稀, 散生

*Scirpus wichurae* Bocklr. アブラガヤ 下部(桧皮田, 530~600m), 道ばたの溝や谷ぶち, やや稀, 大株となり単生

### Juncaceae イグサ科

*Juncus alatus* Fr. et Sav. ハナビゼキショウ 中部(岩屋小屋, 720m), 溝や湿潤な平坦地など, やや稀, 散生(写真-8)

*J. effusus* Linn. var. *decipiens* Buchen. イ(トウシンソウ) 下部~中部(530~710m), 道ばたの溝や谷合いの湿地, やや稀, 群生, クサイと混生することが多い。(写真-9)

*J. tenuis* Willd. クサイ 下部~中部(520~750m), 日当りの道ばたや平坦地の湿地, やや稀, 散生

*Luzula capitata* Nakai スズメノヤリ 下部(530~680m), 道ばたや日当りの裸地などのやや乾燥地~適潤地, 少, 散生

*L. multiflora* Lejeune ヤマスズメノヒエ 下部~中部(550~890m), 道ばたや日当りの山腹林内, 岩の上など, やや乾燥地~適潤地, 少, 散生するが稀に群生

*L. plumosa* E. Meyer var. *macrocarpa* Ohwi ヌカボシソウ 下部~中部(520~750m), 道ばたや明るい林内の適潤地~やや乾燥地, 少, 散生~群生

## 2. 追加植物

本報告第18号(1981), 同第19号(1982)の演習林産草本植物目録(I)および(II)に, 次のものを追加する。

## Dicotyledoneae 双子葉植物

### Urticaceae イラクサ科

*Pilea japonica* Hand.-Mazz. ヤマミズ 下部～中部, 斜面下部の日かげの適潤地, やや少, 群生

### Labiatae シソ科

*Chelonopsis longipes* Makino タニジャコウソウ 下部 (松皮田のキジ小屋610m), 谷ぶちのやや湿潤地, 稀, 散生

## Monocotyledoneae 単子葉植物

### Orchidaceae ラン科

*Goodyera velutina* Maxim. シュスラン 中部 (音田), 明るい林内, 適潤地, やや稀, 単生

## Pteridophyta シダ植物

### Aspidiaceae オシダ科

*Lunathyrium Okuboanum* Sugimoto (*Athyrium Henryi* Diels) オオヒメワラビ (松皮田のキジ小屋630m), 山腹の明るい林内, 適潤地～やや湿潤地, やや少, 散生

## III 総 括

本演習林の草本植物のリストを作る目的で調査を始めてから, ほぼ10年が経過した。この間, その都度とりまとめることができた植物群については, (I) 報, (II) 報として報告してきたが, この (III) 報でひとまず全植物の調査を完了することができた。木本植物については, さきに本演習林報告第2号で「米野々演習林樹木誌」として報告した。

これらを合せて分類群別に整理しとりまとめると, 次のとおりになる。

分類群 文献名	裸子植物	被子植物		シダ植物	計 (種類)
		双子葉植物	単子葉植物		
米野々演習林 樹木誌 (1964)	5科 6属 5種 2変種  小計 7	61科 124属 195種 3亜種 31変種 10品種 小計 239	2科 4属 4種  小計 4		250
米野々演習林の 草本植物 (I) (1981)		48科 158属 198種 34変種 8品種 小計 240	8科*1) 21属 26種 2変種 小計 28		268
米野々演習林の 草本植物 (II) (1982)		△15科 22属 18種 1亜種 7変種 1品種 小計 27	△3科 5属 6種 小計 6	13科 33属 47種 2亜種 5変種 4品種 小計 58	91
米野々演習林の 草本植物 (III) (1986)		△2科 2属 2種 小計 2	3科 36属 64種 14変種 △1科 1属 1種 小計 79	△1科 1属 1種 小計 1	82
計 (種類)	7	508	117	59	691

(注) \*1), イグサ科は (III) 報に移した  
△印, 追加した植物

#### IV あとがき

本演習林は、総面積が384haで、標高は515m～1216mに位置し、標高差が700mもあるため、踏査回数の少ない地域や、開花結実しないと種名の同定が困難な植物があるなど时期的な問題もあって、まだ記録もれがあると思われる。しかしながら、ほとんど大部分の植物は収録することができたものと考えている。今後も引続いて調査を行い、さらに完璧を期したいと思っている。

また、近年の研究により、ササ類など再検討が加えられたものもあるので、今まで4回にわたって報告した木本・草本植物相を整理検討し、利用しやすい形にまとめたいと考えている。

終わりに、現地調査や同定など、多くの方々からご協力・ご教示を賜ったことに対して、厚くお礼を申し上げたい。

(1986年7月31日受理)



写真-1 イワヤスゲ(カヤツリグサ科)





写真-2 イワハスゲの群生



写真-3 テキリスゲ(カヤツリグサ科)



写真-4 ヒゴクサ (カヤツリグサ科)



写真-5 アブラシバ(カヤツリグサ科)



写真-7 ツルヨシ (イネ科)



写真-9 イ (イグサ科)



写真-6 キツネガヤ (イネ科)



写真-8 ハナビゼシヨウ (イグサ科)